



Muse

vol.208

2009 October

発行/学校法人 大阪音楽大学
編集/広報誌編集室
〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8
TEL/06-6334-2131 FAX/06-6334-2141
URL <http://daion.ac.jp>
発行日/2009年10月20日



日食を見る学生たちと、中庭から撮影した日食(2009年7月22日)



CONTENTS

英、仏の2校と姉妹校提携締結/独の芸術大学とも合意……………2
大学院オペラ試演会/豊中子ども音楽祭/高校生のためのオペラ講座…10・11

- 留学生奮闘/大阪ミュージアム構想にオペラハウス・音楽博物館……………3
- 佐藤しのぶ氏・若尾圭介氏・A.ヒュルスホフ氏の特別講義……………4
- 畑中良輔氏特別講座/井上麻子講師がロシアで学生指導……………5
- College Information……………6
- 11月 12月 1月 学校法人大阪音楽大学の催し/オペラハウスの催し……………7
- 授業紹介 佐治晴夫講師の大学院「芸術文化の諸相」……………8
- 連載「校史点描」<9> 校地・味原の変遷……………9
- 全盲の福田正人さんカナダで芸術賞/中村徹さんNHK教育テレビに……………12
- オペラ物知り講座/はびきの市民講座聴講記⑥……………13
- 学生支援センターが発足/帝塚山学院高校と高大連携……………14
- 入試ナビ オペラハウスで歌えます/渡邊崇さん映画音楽作曲……………15
- スロバキア音楽祭に高津さんら/指導者研修に韓国から受講生……………16
- 道頓堀「ZAZA」ヘビア/奇贈/島山さんハイレ奮戦記/防災訓練……………17
- 被爆ピアノコンサート/音楽療法/コンクール入選……………18
- 幸楽会後援演奏会/大阪音楽大学後援演奏会……………19
- 付属音楽幼稚園夏まつり/故石田画伯が絵画寄贈ほか……………20

英・王立ウェールズ音楽演劇大学 仏・ブローニュ=ビヤンクール地方音楽院

大阪音楽大学は7月1日、英国の王立ウェールズ音楽演劇大学と姉妹校提携の覚書を締結。教育、研究、その他の領域において学術と文化交流を行います。また、フランス・ブローニュ=ビヤンクール地方音楽院との提携もブローニュ市議会が締結を認可。近く同市長が署名する、との連絡が本学にありました。これで本学の海外提携校は6大学(音楽院、音楽学院を含む)になりました。

さらに2校と姉妹校提携

覚書や協定書によると、双方は学生の交換▽教員の交換▽(学生)演奏グループの交換▽学術資料やその他情報の交換▽特別な短期学術事業の計画▽共同研究▽セミナー、学術会議への参加▽職員の訓練などを実施し、さらに実行可能な内容を計画する、としています。学生の交換に関しては同時期1対1交換の場合、学業に関わる費用(授業料、諸手続き費用)は互いに免除。ただし、旅費、滞在費、食費など個人に関わる費用は本人

負担。1対0の留学派遣の場合は、受け入れ機関が個人の費用に加え、学業の諸費用も本人が負担するよう要請することができる、としています。有効期間は5年で、契約解除の書面通知がなければ自動的に5年間の更新となります。王立ウェールズ音楽演劇大学はウェールズ最大都市カードیفのカードیف城内にあり、リサイタルルーム3、演習室が50を数え、学生数は約550人。声楽、オペラ、弦楽器、木管楽器、金管楽器、

打楽器、ピアノ、作曲、ジャズ、古楽、音楽療法などが学修でき、オペラやコンサートなど年間300以上の公演が行われています。ブローニュ=ビヤンクール地方音楽院は1959年の創立。地方音楽院ですが、世界で活躍する音楽家が講師として学生の指導に当たり、60の練習ルーム、3つのダンスホール、図書館、2つのコンサートホールなど施設も充実しています。専攻は木管楽器、金管楽器、弦楽器、ピアノ、ピアノ伴奏、ギター、オルガン、ハーブ、チェンバロ、打楽器、声楽、オンド・マルトノ、シンセサイザー、パロック・ヴァイオリンなど。

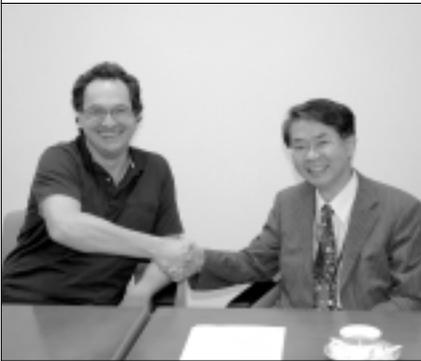
独・フォルクヴァング芸術大学とも合意

大阪音楽大学はドイツ・エッセンのフォルクヴァング芸術大学と姉妹校提携について基本的に合意。

9月15日には音楽学部長のA・ヒュルスホフ教授(4ページに関係記事)が来学し授業や音楽博物館、ザ・カレッジ・オペラハウスを見学した後、中村孝義学長と懇談しました。近く覚書を締結する予定です。

ドイツでは先にデトモルト音楽大学、ワイマール・フランツ・リスト音楽大学と姉妹校提携を結び、

中村孝義学長と懇談するA.ヒュルスホフ教授(学長応接室)



ワイマール・フランツ・リスト音楽大学とは双方で交換留学生を送り出しています。

フォルクヴァング芸術大学は1927年に創立されました。音楽、演劇、ダンス、デザイン、一般教

音楽学部長が来学

育などの学部があり学生数は約1200人。一流の教育プログラム、文化的地位、音楽界への貢献度などが高い評価を得ています。また、年間300以上のコンサートやライヴが行われています。

ヒュルスホフ教授は「姉妹校提携を正式に締結すれば、実のある交流を続けたい。本学ではパソコンやネットワークなどを利用して教育を行うeラーニングを行っており、将来、双方で可能性を検討していきたい」と話していました。

姉妹校提携についてはこのほか10月20日にオランダ・ロッテルダム音楽院のフランス・ホイッ教授が来学。同27日には米国・ミシガン州立大学音楽学部長と、夫が同大学の准教授をしている杉村京美さん(83年大専修・ピアノ)らが来学し、中村学長と懇談する予定です。

ドイツの交換留学生マルティンさん奮闘 ファゴットに箏・胡弓・尺八も

ドイツのワイマール・フランツ・リスト音楽大学からの交換留学生、マルティン・フリードリッヒ・カーゲルさんが9月9日、関西国際空港からバスと電車を乗り継いで本学に到着。長旅の疲れも見せず、国際交流室員らと打ち合わせ。その後、箕面市内のホストファミリー宅に落ち着きました。

一夜明けた10日10時から石原知実さん(大4・ファゴット)ら3人の学生チューターと顔合わせ。



英語に日本語、時にはドイツ語を挟みながらザ・カレッジ・オペラハウスや付属図書館、「ぼうぜ」など学内施設を見て回りました。

後期授業が始まった14日からは各教室で箏や胡弓、雅楽、三絃などの授業を見学。17日にはO号館で日名弘見特任教授からファゴットのレッス

ンを受けました。また、18日には来学前から「ぜひ学びたい」と言っていた尺八の授業に出席。星田一山講師から「首振り3年」など

の説明を受けていました。授業開始からの約10日間を振りかえったマルティンさんは次のように感想を述べました。

学生の皆さんは最初、シャイな感じでしたが、慣れるにしたがつて心を開いてくれ、親切でとても友好的です。また、学んだり、感じたりすることがありすぎて時間の経つのがとても早いです。

これまで、尺八、箏、三絃、胡弓の授業を見学。実際、手にした尺八は少し難しいですが、雰囲気がとても気に入りました。箏は歌いながら演奏でき、親しみやすく日本を感じます。今後は尺八と箏を集中的に学んでいきたい。

府の「大阪ミュージアム構想」 オペラハウスと 音楽博物館登録

ザ・カレッジ・オペラハウスと音楽博物館が大阪府推進の「大阪ミュージアム構想」への登録が決った、と推薦した豊中市から連絡があり、9月16日から府のホームページに掲載されています。

大阪ミュージアム構想は、府内の魅力的な資源を発掘・再発見し、磨き、際立たせ、結びつけることで「大阪全体がミュージアム」という「まちの顔」「まちの空気感」を形成し、大阪の魅力をさらに高め、内外へ情報発信するものです。

「まちの顔」内外に情報発信

登録物のうち、「展示品」の例は建物・街並み▽みどり・自然▽食・生活▽芸能・娯楽。「館内催し」では祭り・イベントなど。08年(平成20年)8月に府が構想を発表。昨年登録されたのは982

件。登録されると府の補助金や特別展事業に対して府の負担金が受けられます。また、登録によって求められるのは、イベントの開催や府の負担金を使ってイベントを開催する場合、同構想のシンボルマーク・ロゴマークなどの表示をする、となっています。

豊中市が府に出した登録提案書によると、オペラハウスは、ヨーロッパのオペラハウスの様式と風格を継承した日本初のオペラハウスです。専属の管弦楽団・合唱団

を持ち、「夏のモーツァルト・シリーズ、秋の20世紀オペラ・シリーズ、コンサート・オペラ・シリーズ」の開催を通じ、音楽の新発信地とすることをめざしています。

音楽博物館は02年に従来の付属楽器博物館と音楽研究所を改組したもので、世界の楽器2000点点が展示されているほか、映像・音響資料や文献などにより、音楽に関する様々な興味に添えています。

楽器の試奏コーナーや館内ガイドツアーもあり、ミュージアム・コンサートやミュージアムセミナーも年2回程度行っています。

サクソフォーンの井上麻子講師が、ロシアのエカテリンブルグ市に招待され、マスタークラスとリサイタルを開きました。エカテリ

井上麻子講師

ンブルグはロシア中央、ウラル山脈ふもとに位置するロシア第3の都市。井上講



アンコールでバラシユック教授と即興演奏する井上講師

師は5月18日にウラル州立音楽院でマスタークラスを開き、学生を指導。19日にはウラル州立フィルハーモニックホールでリサイタルを開き、好評を博しました。

「サクソフォーン科のイゴール・バラシユック教授は、クラリネット科も兼任され、民族音楽からジャズまで幅広くこなす方です。サクソフォーン科の学生は全学年で10人ほど。私が日本から来たということ、マスタークラスでは野

ロシアに招かれマスタークラスとリサイタル

田療の作品も取り上げ、現代音楽にも熱心に取り組んでいました」と井上講師。受け身がちな日本の学生に対して、ロシアの学生は積極的。レッスン後も「現代奏法で、ここはどう演奏したらよいか」「野田療ってどんな人？」と質問攻め

にあったそうです。長くフランスへ留学していた井上講師は「フランスでは明るく、ちょっと鋭めの音が今の流れですが、ロシアはバワフルで、深みのある温かい音色づくりをしている」と、ロシア流サクソフォーンに新鮮な印象を受

は、飛び入りで参加したバラシユック教授と一緒に、人気の高かった「さくら」をテーマに即興演奏する。予期せぬコラボが実現しました。曲の合間には司会者が日本の俳句をロシア語で朗読したり、バックスクリーンに日本の桜の風景を映し出したり、凝った演出に会場は一段と盛り上がりました。

リサイタルでは「ぜひ日本の作品を」との依頼に応え、本学卒業生の野田療、村尾厚貴子や、棚田文紀、林光の作品を、ロシア人ピアニスト、ヴェラ・ヤルコヴァさんとの共演で演奏。アンコールで

ほとんど共演で演奏。アンコールで

日本の音楽に対する関心の高さと、ロシアで出会った人々の温かい心遣いに感銘を受けた井上講師。「いつか音楽院と大阪音楽大学で、交換留学や親善演奏ができるといいですね」と夢を語り合い、ロシアの地を後にしました。

畑中良輔特別講座

畑中良輔特別講座「日本歌曲100年の歩みを辿って」の第2期戦後編が7月3日、ミレニアムホールでスタートしました。1回目は戦後華々しく活躍した作曲家・清水脩と「新声会」を興した柴田南雄の作品を取り上げます。

日本歌曲・戦後編

私が初めて清水さんの曲を聴いたのは「春の寺」。室生犀星の詩集「抒情小曲集」の中の一つで、この中に「み寺にさくられうらんたれば」という言葉が出てきます。「繚乱たれば」という感



この繚乱とした感じを清水さんはピアノの前奏で「七の和音」を使って表現された。当時「七

の和音」は「ド」と「シ」が同時に鳴るから古典の和声学では厳禁。そんな時代に清水さんは禁則を破られた。ピアノのパートがこれ

じは日本人でなければ出せない表現。ただきれいに咲いているだけでなく、その中には匂いもあり風もある。室生犀星は言葉を工夫し、

ほど雄弁に色彩をもって描かれた歌曲はちょっとないんです。

清水さんは「春の寺」に始まり「蛇」（室生犀星）、「サーカス」（中原中也）など、皆が余り選ばなかったような詩に曲を付けていった。

日本歌曲の額縁から飛び出し、新しい風を吹き込んだ作曲家です。終戦の翌年、1946年1月に

それまで実力をためていた柴田南雄、入野義朗さんらが集まって作曲家集団「新声会」を立ち上げます。戦後の混乱期に新しい声を起こそうというわけで、私は復員後、この会に合流しました。柴田さんの名を有名にしたのは

立原道造の詩集「優しき歌」。日本の抒情はそれまでセンチメンタルなのが多かったが、立原の詩はみずみずしい日本語で、ヨーロッパ風の乾いた風が吹いてくるような抒情でした。

柴田さんのやさしい気持ち立原の詩と結びつき、やがて「爽やかな五月に」「さびしき野辺」など、繊細な作品が次々と生まれました。

ソプラノの加藤かおりさん、バリトンの福嶋勲さん、ピアノの村展子さんが清水脩の「蛇」「海辺」、柴田南雄の「さびしき野辺」など12曲を演奏しました。

第9回 ザ・カレッジ・アンサンブル・コンサート

11月9日(月)18時 ザ・カレッジ・オペラハウス 入場料1000円
 二台四手 吉川優梨香 山口真里
 マリンバ二重奏 西園望 松野愛生
 クラリネット四重奏 大内彩葉 西岡章博
 辻友里恵 坂本彩華
 金管・打楽器十一重奏 濱田夕葵 中水裕子
 丸山亜津沙 田原正士 三好香澄 野村梨恵
 岩本慶妃 山口菜美 藪下洋信 光本諭史 角武
 二台四手 真下佳奈子 真下菜穂子
 四重奏 和久田優 飯沼奈那恵 小橋綾実 安西彩香
 七重奏 山田聖華 小山亜希 山崎清花
 藤原克匡 丹沢加奈子 林美沙 横谷静美
 二重奏 市川拓平 田中梨沙
 クラリネット四重奏 藤本亜弓 鷹羽萌子
 川原智世 萩原亜弓
 木管五重奏 藤田紗織 飯沼奈那恵 小橋綾実
 石原知実 大北幸恵

第21回 ザ・コンチェルト・コンサート

11月13日(金)18時 ザ・カレッジ・オペラハウス 入場料1000円
 指揮 大勝秀也 管弦楽 ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団
 F.メンデルズゾーン/バルトルディ:ピアノ協奏曲 第2番 二短調 作品40
 ピアノ 林ゆかり
 P.クレストン:トロンボーンとオーケストラのための幻想曲
 作品42 トロンボーン 岡村哲朗
 H.トマジ:アルト・サクソフォーンとオーケストラのための協奏曲
 サクソフォーン 茶円清正

第20回 ザ・カレッジ・コンサート

11月19日(木)18時 ザ・カレッジ・オペラハウス 入場料1000円
 ピアノ 増井愛
 ソプラノ 白井直美 ピアノ伴奏 吉野有美
 クラリネット 小橋綾実 ピアノ伴奏 佐々木茉莉子

大阪音楽大学第52回定期演奏会

12月4日(金)19時 ザ・シンフォニーホール 入場料1000円 指定席
 (チケット取扱い)チケットぴあ ☎0570-02-9999 Pコード 334-167
 ABCチケットセンター(ザ・シンフォニーホール内 窓口受付のみ)
 大阪音楽大学コンサート・センター ☎06-6334-2242

指揮 小田野宏之 管弦楽 大阪音楽大学管弦楽団
 合唱 大阪音楽大学合唱団
 I.ストラヴィンスキー:舞踊組曲「火の鳥」(1919年版)
 L.v.ベートーヴェン:交響曲 第9番 二短調 作品125 (「合唱付」)
 ソプラノ 松田昌恵 アルト 荒田祐子
 テノール 西垣俊朗 バリトン 田中勉

いよいよコンサートシーズン到来。11月はオーディションで選ばれた学生たちが、オペラハウスで「芸術の秋」を彩る華やかなステージを展開します。12月は「ザ・シンフォニーホール」で大学定期演奏会。大阪音楽大学管弦楽団・合唱団の演奏で、熱いエネルギーがほとばしる「火の鳥」と「第九」をお楽しみください。

第23回 新作展

11月12日(木)18時 ミレニアムホール 入場料 1000円
 作曲 栗川貴博 高木日向子 岡本惟禎
 山本真理子 杉本悠 中村徹 内兼久康美
 松本栄成 恩地孝幸 手柴里美

第24回 ピアノ・グランド・コンサート

11月16日(月)18時 ザ・カレッジ・オペラハウス 入場料1000円
 指揮 大勝秀也 管弦楽 ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団
 W.A.モーツァルト:2台のピアノのための協奏曲 変ホ長調 K.365 (316a)
 ピアノ 加茂里織 小野文
 W.A.モーツァルト:ピアノ協奏曲 第23番 イ長調 K.488
 ピアノ 比果沙織
 L.v.ベートーヴェン:ピアノ協奏曲 第3番 ハ短調 作品37
 ピアノ 村井陽香

第16回 ジュニア・カレッジ・コンサート

11月20日(金)18時 ザ・カレッジ・オペラハウス 入場料1000円
 フルート 宮脇翔子 ピアノ伴奏 藤本さえ子/二重唱
 畑村瞳 安藤華純 ピアノ伴奏 荒武真子/クラリネット
 中井美緒 ピアノ伴奏 西出晴美/バス・トロンボーン
 濱野彩香 ピアノ伴奏 藤本さえ子/サクソフォーン四重奏
 坂本美佳子 石田可奈恵 肥後絵莉奈 徳岡美紀/ピアノ 近藤千朱/クラリネット 川原智世 ピアノ伴奏
 荒武真子/ソプラノ 大山瑞紀 ピアノ伴奏 吉川優梨香/ユーフォonium 棚原茜 ピアノ伴奏 新宅百合子/サクソフォーン 外山舞 ピアノ伴奏 永野友加吏

第32回 邦楽演奏会

11月27日(金)18時 ミレニアムホール 入場料1000円
 演奏 大阪音楽大学邦楽専攻生
 大阪音楽大学邦楽専攻教員・演奏員

大阪音楽大学短期大学部第18回定期演奏会

12月19日(土)18時 ザ・カレッジ・オペラハウス 入場料1000円
 第1部

◆ピアノ四台十六手
 P.I.チャイコフスキー(編曲/松本昌敏):「くるみ割り人形」
 演奏 ピアノ専攻選抜学生
 片山知穂 倉永彩 近藤千朱 柴田穂奈美
 下浦里佳 林由佳 藤原千鈴 牧田麻菜美

◆合唱
 A.ヴァイヴァルディ:グロリア RV589
 指揮 里井宏次 演奏 短大合唱クラス受講生
 第2部

指揮 小野川昭博 演奏 大阪音楽大学短期大学部吹奏楽団
 R.ガランテ:レイズ・オブ・ザ・サン
 保科洋:風紋 真島俊夫:3つのジャポニズム

ミレニアムピアノコンサート

～ピアノ教員による演奏会～ ミレニアムホール

第6回 11月5日(木)17時 入場無料



西本由香
 F.リスト:ハンガリー狂詩曲 第3,10,12番
 田中紀子
 F.ショパン:スケルツォ 第4番 ホ長調 作品54 他
 土井 緑
 F.ショパン:ピアノソナタ 第2番 変ロ長調 作品35(葬送)

第7回 12月10日(木)17時 入場無料



宮下朋樹
 L.v.ベートーヴェン:ピアノソナタ 第32番 ハ短調 作品111
 大竹道哉
 A.ウェーベルン:ピアノのための変奏曲 作品27 他

コンサート・センターからお知らせ

■本年度から本学学生出演の演奏会が一部有料になります。各演奏会の詳細とともにご案内いたします。

■電話、Fax、はがき、大学ホームページ等で入場券をお申し込みになり、郵送で受け取りご希望の場合、代金の振込手数料、送料はお客様のご負担となります。また、本学主催演奏会の「ご案内チラシ」のみ郵送ご希望の方も送料をご負担いただきます。詳しくは電話でお問い合わせください。

[大阪音楽大学コンサート・センター]
 〒561-8555 豊中市庄内幸町1-1-8
 ☎06-6334-2242 Fax06-6334-2164

※11月26日(木)の開催は都合により中止します。ご了承ください。

ザ・カレッジ・オペラハウスの催し



開館20周年記念公演

第44回オペラ公演 20世紀オペラ・シリーズ

A.オネゲル **「火刑台上のジャンヌ・ダルク」**

(台本 P.クローデル 原語/フランス語・一部訳詞上演・字幕付)

11月6日(金)19時 11月8日(日)14時 指定席

一般7000円 シルバー6000円 高校生以下3000円

指揮 チャン・ユンスン 演出 岩田達宗

制作担当 高橋浩子 制作統括 本田耕一

ジャンヌ・ダルク 石橋栄実 修道士ドミニク 川下登

第1の語り手 浜田広志 第2の語り手 水谷雅男

酒樽小母さん 福島紀子 聖処女/子供の声 中西麻貴

マルグリート 田邊織恵 カトリーヌ 荒田祐子

テノール・ソロ 松岡重親 バス・ソロ 萩原次己

合唱 ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団

管弦楽 ザ・カレッジ・オペラハウス管弦楽団

オンド・マルトノ 久保智美

は歌手。主役を含め通常俳優が演じる役も、全部

いただけだと思う。今回注目していただきたいの

フルでドラマティックな音楽の一体性を味わって

1に沿った音場設定をしたので、オネゲルのカラ

に一本の巨大なろうそくがある。合唱はストーリ

舞台は「世界」。地獄、地上、天上のまんなか

国家という共同体意識を呼び覚めます。ジャンヌ・

ダルクは生きた建国神話だ。

「ジャンヌ・ダルクは、ヨーロッパが暗闇の冬

から春になる朝、子どもがぼっと灯したろうそく

の炎。フランスは、それをみんなが見つめてでき

た国」。台本作者、ポール・クローデルは、こん

な詩的な言葉を寄せている。一人の少女が神の啓

示を受けて戦い、火あぶりになることで、人々に

日本の「ジャンヌ・ダルク」に挑戦

演出家 岩田達宗



歌手が演じる。なぜなら音楽と言葉の関係が緻密

で、オーケストラに呼応して生きた言葉をしゃべ

れるのは、オペラ歌手だけだから。特に石橋栄実

のジャンヌ・ダルク。日本人の持つ少女、聖なる

乙女のイメージと、音楽性を兼ね備えた石橋栄実

は稀有な例になるだろう。

を演出するならば、歌唱部分はフランス語で、ジャ

ンヌ・ダルクと修道士ドミニクのセリフは、彼ら

の訳を使うと心に決めていた。そうすることで

彼らの遺志を引き継ぎ、日本の「ジャンヌ・ダ

ルク」を完全な形でクローデルに見せたい、そんな

意気込みで挑戦している。

クローデルは外交官として日本に

滞在し日本文化を愛した。仏文学者

安堂信也と矢代秋雄は「ジャンヌ・

ダルク」を見事な日本語に訳し初演

している。僕が「ジャンヌ・ダルク」

11月・12月・1月 数大阪音楽大学の催し

11月5日(木) 17時	第6回ミレニアムピアノコンサート MH 出演 西本由香 田中紀子 土井緑
11月5日(木) 19時	大阪音楽大学開放講座「音楽・心の旅23」② 豊中市立中央公民館 講師 中村真美
11月6日(金) 19時	20世紀オペラシリーズ「火刑台上のジャンヌ・ダルク」 OH 出演 石橋栄実 川下登 田邊織恵 荒田祐子 他
11月7日(土) 15時	指導者研修 打楽器⑦ K号館212 講師 北野徹
11月8日(日) 14時	20世紀オペラシリーズ「火刑台上のジャンヌ・ダルク」 OH 出演 石橋栄実 川下登 田邊織恵 荒田祐子 他
11月9日(月) 18時	第9回ザ・カレッジ・アンサンブル・コンサート OH 出演 出演者選考オーディション合格者
11月12日(木) 18時	第23回新作展 MH 出演 審査合格者
11月12日(木) 19時	大阪音楽大学開放講座「音楽・心の旅23」③ 豊中市立中央公民館 講師 木村知之
11月13日(金) 14時	大阪音楽大学公開講座「音楽の宝宝箱」③ 高槻市立生涯学習センター 講師 北見真智子
11月13日(金) 18時	第21回ザ・コンチェルト・コンサート OH 出演 出演者選考オーディション合格者
11月14日(土) 17時	Daionコンサート 夕映の海とともに ATC南港サンセットホール 出演 西田歩美
11月16日(月) 18時	第24回ピアノ・グランド・コンサート OH 出演 出演者選考オーディション合格者
11月19日(木) 18時	第20回ザ・カレッジ・コンサート OH 出演 出演者選考オーディション合格者
11月19日(木) 19時	大阪音楽大学開放講座「音楽・心の旅23」④ 豊中市立中央公民館 講師 時宗務
11月20日(金) 14時	大阪音楽大学公開講座「音楽の宝宝箱」④ 高槻市立生涯学習センター 講師 晴雅彦
11月20日(金) 18時	第16回ジュニア・カレッジ・コンサート OH 出演 出演者選考オーディション合格者
11月21日(土) 14時	卒業生による「若い芽のコンサート」 MH 出演 土肥彩香 辻村ゆず 倉本尚子 加藤理彩子 松野友美 小寺智絵 柳川真理子 南亜貴子
11月27日(金) 14時	大阪音楽大学公開講座「音楽の宝宝箱」⑤ 高槻市立生涯学習センター 講師 森 宏
11月27日(金) 18時	第32回邦楽演奏会 MH 出演 大阪音楽大学邦楽専攻生
12月4日(金) 19時	大阪音楽大学第52回定期演奏会 ザ・シンフォニーホール 出演 大阪音楽大学管弦楽団・合唱団
12月5日(土) 14時	ミレニアムホール特別講座「シューベルト、歌曲の世界」 MH 講師 日下部吉彦 演奏 岡原慎也 藤村匡人
12月10日(木) 17時	第7回ミレニアムピアノコンサート MH 出演 宮下朋樹 大竹道哉
12月12日(土) 17時	Daionコンサート 夕映の海とともに ATC南港サンセットホール 出演 辻合佑晴 田久保友妃 古川真也
12月18日(金) 18時30分	畑中良輔特別講座「戦後日本の二大作曲家の出現」 MH 講師 畑中良輔 演奏 石橋栄実 小玉晃 関口康祐
12月19日(土) 18時	大阪音楽大学短期大学部 第18回定期演奏会 OH 出演 大阪音楽大学短期大学部在学学生
2010年 1月9日(土) 17時	Daionコンサート 夕映の海とともに ATC南港サンセットホール 出演 星田一山
1月10日(日) 17時	短期大学部電子オルガンコース・コンサート OH 出演 電子オルガンコース専攻生
1月16日(土) 15時	合唱演奏会 OH 出演 大阪音楽大学合唱団、大阪音楽大学短期大学部合唱団

OH/オペラハウス MH/ミレニアムホール

7月3日の第6回

LINGUA FUNDAMENTUM

SANCTI SILENTII「音は聖なる沈黙に基づく」。沈黙と言葉はたがい相補的な関係にあります。日本の国旗を例に取ると、白いと

授業紹介 大学院「芸術文化の諸相」

宇宙物理学者で鈴鹿短期大学学長、佐治晴夫講師の大学院「芸術文化の諸相」は7月3日に6回目の「音が音楽になる時『自然は芸術を模倣する』(オスカー・ワイルド)といえるのか」、最終回の同10日は「宇宙に旅立ったバッハのプレリュード。1977年、太陽系・外惑星探査を目的として打ち上げられたボイジャーに、地球からのメッセージとして、なぜ、バッハが搭載されたのか」について講義しました。前号と同様、208号の2回も授業内容と抄録の内容が一致しない部分があります。講義の一部を取り上げて編集したためです。ご了承ください。

佐治晴夫講師(鈴鹿短期大学学長)

7月10日の最終回

6回目の講義で「取って置きの音」としてE・T・(地球外知的生命体)との交信に使用する音楽を紹介。最終講義は、今までのおさらいをして、そのまとめとして、

ころに赤い丸を入れたのか、赤い布の外側を白く塗ったのか。結果は同じでもプロセスによって意味が違います。光と影の関係も然り、宇宙は対極の性質のバランスからできています。

音楽の中に数学が見えてくる

ところで、生物の感覚は、人間も含めて常に変化量で認識します。音楽とは、物理の目で見れば、音程、リズム、強弱そして音と静寂など、すべてが変化によってもたらされる芸術です。それを「ゆらぎ」といいます。

実は、自然界の「ゆらぎ」の特性を調べてみると、まったく予測できない変化と、予測可能な変化がまじりあつた変動であることがわかってきます。これを「f分の1ゆらぎ」といっています。まったく予測できない変動をもつ雑音

と、「f分の1」の変動をもつ雑音を聞き比べると、後者が音楽的に聞こえたでしょう。また、DN



音階の構造とカデンツの構造を純粹に数学の立場から考えることを試みました。そして、1977年、米国・フロリダ州のNASAの宇宙基地から太陽系・外惑星探査を目的として打ち上げられたボイジャー1、2号にはE・T・との遭

なぜ、この曲が選ばれたのか。

少しだけ数学と物理の勉強を

しかも、前回、お話し

遇を想定して? 前回取り上げたバッハの「平均律クラヴィア曲集」第1巻 第1番の『プレリュード』が搭載されたことの理由について、その提案者の立場からの話がされました。

「それは、この楽曲の中には、宇宙の普遍的言語としての数学的性質が顕著で、しかも、前回、お話しした『f分の1ゆらぎ』という自然の根源的要素が多分に含まれているからです。また、未知なるものとの交信に、音が使われたのは、たとえば、我々に似た生物だった場合、もっとも根源的な感覚は聴

A遺伝子の分子配列を音に割り分けてみたら、シヨパンのピアノソナタそっくりだったでしょう?

さらには、水道の蛇口からしたり落ちる水滴のリズム変動と水量の変化から、聴いていたいたとおりの子守歌ができました。そこに、物理からみた音楽の面白さがあります。素人とプロの演奏の違いもそこにあります。また、バッハの「平均律クラヴィア曲集」第1巻 第1番にでてくる低音部の「ゆらぎ」にも着目してください。音楽の中には、気づかないうちに、自然界の根源的性質である「f分の1ゆらぎ」が、隠されています。

覚であるという仮定に根ざしていたからです」

「もちろん、NASAの誰もがE・T・との遭遇が確実だ、などとは思ってはいませんが、初めて地球から宇宙に送り出す側からみれば、何らかのメッセージをそえずにはいられない衝動にかられたのです」

「そういった意味からすれば、音楽こそ、宇宙の共通言語だということになります。音楽を学ぶ学生の皆さんもそのことを理解するために、ちょっとだけ数学と物理のお勉強をされることを切に希望して講義を終えることにします」

大阪音楽学校校長、永井幸次の念願だった新校舎が1926年(大正15年)、大阪市東区味原町99(現在の天王寺区味原本町8)に完成。

これを契機に夜間から昼間授業へと切り換え、これまでの「音楽塾」から「学校」へと大きく変貌しました。ただ、校地いっばいに校舎が建てられ、運動場がないのが難点でした。もう一つ、教職員や学生たちを悩ませたのが「浸水」でした。なぜなのか、その味原を訪ねました。(文中敬称略)

校地は味原池と言われた池跡でした。このため、地盤が軟弱で湧

校史点描

〈9〉

き水が出て、校舎の基礎工事の段階から排水に手間取った上、完成後も地下の倉庫などがすぐに浸水しました。

同市生野区桃谷2丁目にある瀾栄神社の逸見貞紘宮司は「味原池は本格的に埋め立てられたのではなく、池の水を抜いて軽く土を入れただけ、と聞いています。だから、池だった場所は現在も一段低くなっています」と話しています。確かに、味原校舎があった現在地の近くには「味原池の土手だった」

と言われている石垣が今も残り、味原池跡の低地と土手側の高地を結ぶ通路にはコンクリート製の階段が取り付けられています。

味原池は旧木野、小橋両村の共有灌漑池で、文書には広さ2町7反5畝歩(約2万7千平方メートル)と

周辺の桃畑 開発で消滅

5月に私鉄大阪鉄道の城東線(現在のJR環状線)が天王寺から玉造まで開業。汽車が折り返し運転し、現在の桃谷駅は「桃山駅」と名付けられました。ただ、同じ年に京都・伏見でも鉄道が開設され、桃山駅があったので、混同を避け

校地・味原の変遷



①味原池の土手だったと言われる石垣=大阪市天王寺区
②生徒たちのいこいの場だった新校舎屋上



池も役割終え埋め立て

のため大阪の方は、その後桃谷駅と改称され、今もその駅名が受け継がれています。この駅改名についても逸見宮司は「城東線の桃山駅は京都よ

り先に名付けられたのですが、何と言っても桃山は京都が『本家』。そこで、大阪は桃山の駅名を京都に譲り、桃谷に変えたようです」と話しています。

記されています。付近一帯の丘陵地は江戸時代中ごろから桃畑が広がっていたので、桃山と呼ばれていました。江戸時代の書物には「すべてこの辺は、一円桃畑にして弥生の初旬、花の頃は老若男女うち群れて野徑に充滿す」と書き記されたくらい、春の開花期は見事で、花見の人たちで賑わいました。しかし、1895年(明治28年)

原池も灌漑の役割を終え、19年(大正8年)に民間会社によって宅地化されました。

また、当時の東区と天王寺区の境界は複雑に入り組んでいました。東区に属していた味原町は43年(昭和18年)の大阪府行政区再編成で、真田山地区などとともに天王寺区に編入され、65年(昭和40年)には大阪音楽学校があった辺りは味原本町になりました。

ところで、1915年(大正4年)の開校時、ピアノ1台、オルガン2台だった大阪音楽学校は、味原校舎で再スタートを切った26年にはピアノが練習用8、教授用4の計12台、オルガンが13と2の計15台に増えていました。校長の永井は「音楽学校は官立より自由な私立で」と言い、「基礎の確立」と「個の充実」をモットーに根気よく、伸び伸びと生徒たちを教育しました。

味原校舎に移ったその年の12月25日、大正天皇が崩御されて「昭和」と改元され、昭和元年はわずか1週間、昭和2年になりました。そして、3月には新校舎で最初の卒業式が行われました。修業年限1年の乙種師範科の12人で、翌28年(昭和3年)には甲種師範生、さらに29年(同4年)には本科生が巣立ちました。



プロの音楽家ら指導



のオペラ講座

手を繋いで」などを題材に、
聲、バリトンの田中由也准教授、
発音、表現方法などを指導し

2日目はオペラハウスで発表会。指揮・加藤完二講師、
ピアノは矢崎真理、西尾麻貴さん。この講座の修了生で
現在本学に在学している山崎太郎さん(大4)ら11人が
助演し、全員課題曲などを歌い切りました。

大学院オペラ試演会

09年度大阪音楽大学大学院オペ
ラ試演会が7月23日、ザ・カレッジ・オ
ペラハウスで開催されました。演
目はJ.シュトラウスⅡの喜歌劇
「こうもり」(全3幕、原語上演)
です。

キャストはロザリンデに友田
久美さん(院2)、オルロフスキ
ー公爵に中侑子さん、アデー
レに白根奈々さんと川口りな

喜歌劇「こうもり」笑いに苦勞



ん(以上院1)。これらオペラ研究室
の4人に、教員や演奏員、大2~大4
の皆さんが協力しました。

友田さんは「ドイツ語のせりふに苦
勞しましたが、院生の人数が少ない分、
ほぼ全幕にわたって舞台に立てる場
を与えられました。それに、喜歌劇と
いうことで聴衆に喜んでもらえたと
思いますが、同時に笑わせることの難
しさを学びました」と話していました。



9月26日 ミレニアムホール



色鮮やかにフランス色

コンサート

.17

「若い芽のコンサートvol.17」のテーマは

「Quatre couleurs」4組が彩るフランス色」。

19世紀から20世紀にかけて活躍した7人の
作曲家が色鮮やかによみがえりました。

演奏は辻合佑璃さん(フルート)、田
久保友妃さん(ヴァイオリン)、古川
真也さん(サクソフォーン)、有居恵
さん(ピアノ)の4人。

フルート奏者で、作曲家と指揮者
の顔を持つ ph・ゴッベールの「バ



年少女合唱団の皆さんたちも
喜しました。2部は大阪を代表
中学校の吹奏楽部や大阪音
楽向を凝らしたパフォーマンス

圧巻は箕面自由学園高校チアリーダー部の高度な技。
9年連続日本一の演技には、どよめきと拍手が鳴りやま
ませんでした。この日は1、2階とも満席。「子どもたちから感
動と元気を頂きました。音楽祭は今回で終わらず、これか
らも継続してほしい」と皆さん。

も音楽祭



来年も続けて





福井などから16人



第36回レクチャー・コンサート

大阪音楽大学ミレニアムホール特別講座の第36回レクチャー・コンサートが9月12日にありました。日下部吉彦氏は「楽器の恋人フルートと女王のハープが勢ぞろい。男性にとってはうれしいことです」と聴衆を笑わせ、長山慶子准教授（フルート）と三浦由美子講師（ハープ）がW.A.モーツァルトの「フルートとハープのための協奏曲 K.v.299」より第2楽章を演奏しました。

長山准教授は「モーツァルトは我慢のならない楽器（フルート）のために作曲しなければならない、と父親に手紙を書いています。実は、曲の依頼者はフルートがうまくなかったためだったようです」。

ハープについて三浦講師は「1本の弦で3つの音が出ます。弦は全部で47本あります」と説明。この後、フルート専攻生と長山准教授によるF.ドップラーの「森の小鳥」（特殊管を使ったフルートアンサンブル）の演奏もありました。



楽器の恋人と女王勢ぞろい



シヨパンら7人の作品



し、生きいきと披露しました。

アンコールは古川さん編曲のオペラ「カルメン」より3曲。4人が舞台に勢ぞろい

で聴かせてくれました。

「F・シヨパンらの作品を心ゆくま

の中心人物として活躍したD・ミヨ

「ソナタ」をはじめ「フランス6人組」

「ヴァイオリン・

ちたC・フランクの「ヴァイオリン・

ラード」、豊かで繊細な色合いで満

卒業生4人が演奏

若い芽の

vol.

「子どもに夢と感動」をテーマにした豊中子ども音楽祭（豊中南ロータリークラブ創立40周年記念事業）が10月4日、ザ・カレッジ・オペラハウスで開かれました。

オープニングは箕面自由学園高校吹奏学部のマーチング。次いで李裕璃さん（09年大卒・ソプラノ）が残したい

日本の唱歌を独唱。豊中少「崖の上のポニョ」などを披露する豊中市立第十一、十三学大学管弦楽団の登場。趣が会場を沸かせました。



感動と元気を



豊中子ども

日本代表 全盲ピアノニスト福田正人さん

「心に響け」カナダで芸術賞

09年春に本学短期大学部器楽専攻ピアノを卒業し、兵庫県内を中心にボランティア活動を続けている全盲のピアノニスト、福田正人さんが9月30日から10月4日までカナダ・バンクーバーで開かれた「第2回国際障害者ピアノフェスティバル」に日本代表の一人として出演、見事芸術賞を獲得しました。

福田さんは4歳のころ、母親の知人の妹で本学卒業生の木村美和さん（75年大卒・声楽）にピアノ



堺で開催の「支援コンサート」で熱演する福田正人さん

を習い始め、大阪府立盲学校（現・大阪府立視覚支援学校）の中学部と高等部へ。さらに、専攻科音楽科に進みましたが、ピアノを弾く

「きらっといきる」
中村徹さんの
学生生活を追う

本学音楽専攻科作曲専攻の中村徹さんが9月14日から学内などでNHK教育テレビ「きらっといきる」の取材を受けました。中村さん＝写真右＝の学生生活を追い、自閉症について考えようという番組で、10月23日（金）20時から全国放映されます。

NHK教育で10月23日放映

中村さんは6歳の時、自閉症と診断されました。自分の夢である音楽への道に進むため、01年4月に大学ピアノ専攻に入学しました。さらに、05年には同作曲専攻に入り、09年4月から大専に在籍し水田孝信教授に師事しています。

「きらっといきる」は障害者が主人公で、希望を捨てずに歩き続けている人に生き方を教えてもらい、ヒントや元気をもらおうという番組です。

「言いたいことがうまく言えない」「断られるのが怖い」。人と

「自閉症について考える」



のが嫌になった時期もありました。転機となったのは高等部3年生の時、出演したピアノ発表会で、ほかの人が弾くF・ショパンの「英雄ポロネーズ」を聴き、その素晴らしいさに感動。「自分もぜひ弾いてみたい」と。今は点字楽譜を使いますが、当時は木村さんに弾いてもらい、一音ずつ覚えめました。「全曲弾けるようになるのに半年ぐらいかかったと思います」と福田さん。

07年、短大に入学し2年間、松村英臣講師に師事。卒業直後の4月、タイで開かれた「日メコ交流年2009 チェンマイ・バンコクチャリティーコンサート」に出演。5月には神戸のホテルで演奏。このほか、NHK神戸放送局のロビー・コンサートなど、西宮や神戸を中心に活動しています。

「国際障害者ピアノフェスティバル」はNPO法人日本障害者ピアノ指導者研究会主催。17カ国の人たちが集まり、日本からは福田さんら総勢70人が参加しました。これに先立つ8月25日には堺市の国際障害者交流センター（ビッグ・アイ）で近畿・中国代表10人の「支援コンサート」がありました。

交わる時にそう思っている中村さんが今、挑戦しているのが10月30日から催される大学祭のお手伝い。合唱の企画を考えていますが、具体的どうしたらいいか分からない。自分の考えを相手にうまく伝えることができるかどうか。

帰宅後も父親で本学講師の健さんや母親とその日の出来事について話し合ったり、分からない言葉はすぐ調べ、コミュニケーション能力を少しでも上げようとしていたり。また、友達を増やそうと努力する中村さんの姿を追っています。

第5期のテーマは「この人でこのオペラ」。今回は関西を代表するメゾ・ソプラノの荒田祐子さん(教授)をお迎えしてメゾの魅力に迫ります。

岡本佐紀子さんのピアノでG・F・ヘンデルの「セルセ」の aria「優しい木陰」が会場に響きます。次いでG・ドニゼッティの「ファヴォリータ」より「ああ、私のフ

オペラ物知り講座 第5期

「この人でこのオペラ」
中村 敬一



7月21日 ミレニウムホール

荒田祐子さんの場合

エルナンド」。

いかがですか。荒田さんの豊かな、やわらかい人間的な響き。つくられた声ではなく、本当に体の中からにじみ出てくるこの声こそがメゾ・ソプラノの魅力です。実はオペラの場合、7、8割はソプラノが主役。今、荒田さんに歌っていたいただいた2曲は数少ないメゾが主役のオペラですが、日本では残念なことに「カルメン」以外は余り上演される機会がありません。メゾ・ソプラノには声の種類か

ら「敵役」というもう一つ大事な役があります。F・チレアの「アドリアーナ・ルクブルール」もその一つ。ソプラノとメゾが同じテノールを取り合って激しい恋の鞘当てを演じます。「彼は私のもの。誰にもこの絆は断ち切れません」。愛と嫉妬に苦しむ女声2人による二重唱はこのオペラの最大の聴きどころ。お相手はソプラノの松田昌恵さん(准教授)。松田さんは、東京ではたくさんの舞台経験を積んでいらつしやる円熟のソプラノ。荒田さんとの夢のデュエットが、悶々とした心の内を歌い上げます。A・ボンキエツリの「ラ・ジヨコンダ」。これも恋の鞘当て。「死にも立ち向かう」「私の愛は負けないわ」。荒田さんと松田さんは、人妻であるラウラと歌姫・ジヨコンダの二重唱をドラマチックに披露しました。メゾの魅力、ソプラノとのコントラストの魅力に客席は心酔。おまけは荒田さんの十八番「カルメン」。前奏が始まると会場から大きな拍手が沸き起こりました。

5月19日に予定していた「この人でこのオペラ! 高嶋優羽さんの場合」は来年2月22日に開催します。

1600年にオペラが誕生してヨーロッパ中に流行するまでの200年間(バロック、古典派時代)は、宮廷お抱えの音楽家たちがお城の中で合奏し、貴族がそれを楽しむ宮廷音楽全盛の時代でした。合奏に専門の指揮者が登場するのはこれよりも後、19世紀になってからで、当時はほとんどの場合、指揮者なしで合奏が行われていました。

はびきの市民大学・聴講記 ⑥

西洋音楽史(講師・白石知雄)

競争と協奏、合奏の愉しみ



アイコンタクトで演奏者統率

バロック時代の合奏曲の基本は「コンチェルト」。このスタイルを確立したのはヴィヴァルディと同時代のイタリアの作曲家、コレツリだといわれています。当時、宮廷では演奏のために音楽家を雇っていましたが、その数はせいぜい10人前後でした。ところが王様の結婚式とかパレードの時には10人ではいくらなんでも少なすぎる。そこでどうしたかというと、普段教会で仕事をしている人や劇場の音楽家たちをエキストラとして臨時に雇ったんですね。これがコンチェルト、グロッソンの始まりです。

「協奏曲」と訳されていますが、「協力し、競う音楽」です。それでは指揮者なしで、どのようにして演奏していたのか。そのころのオーケストラの数は多くても20人程度。リーダーはヴァイオリンとチェンバロの二頭立て。リーダーはあちこちにセンサーを張り巡らせ、肝心なところはアイコンタクト、目で合図しながらたくさんの人を統率していました。バロック時代の合奏は小さな編

成、小さな音、互いの息遣いを聞きながら、アイコンタクトができる小さな空間でよかった。合奏は音の「会話」だったので。そのころの作品ではヴィヴァルディの「四季」が有名です。しかし、この時代にも広い場所で演奏しなければならぬこともあり、大きなコンチェルト(コンチェルト、グロッソ)と呼ばれるスタイルが生まれてい

ています。ヘンデルの「王宮の花火の音楽」、ハイドンの交響曲第6番「朝」などがあり、バッハの「ブランデンブルク協奏曲第5番」もコンチェルト、グロッソのジャンルといわれています。

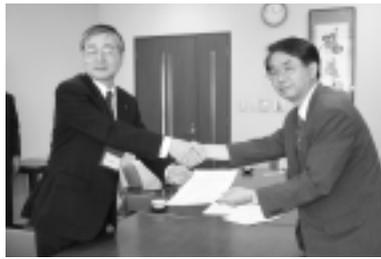
学生支援センター発足

「学生支援センター」が9月14日からスタートしました。学生たちの支援をさらに強化するため、学務センターを改めたものです。

交換留学などの相談窓口は企画事務部門の「国際交流室」が担当していますが、これからは学生支

大阪音楽大学短期大学部と帝塚山学院高校（大阪市住吉区・山本三郎校長）は9月25日、教育交流に関する協定書に調印しました。教育交流を通じ高校生の学習意欲

帝塚山学院高校と短大が「高大連携」ポピュラー・コースで受け入れ



を高め、大学・短大の教育内容や授業について理解を深める「高大連携」の一環。03年に締結した大阪府立池田北高校に続いて2校目で、10年4月からスタートします。

交流活動は同高校の生徒を短大

援センターでも受け付けることになりました。また、海外コンクール・海外研修の紹介についてはエクステンション・センターから業

交換留学相談も受け付け

ポピュラー・コースの「特別聴講生」として受け入れます。履修した授業科目は高校で単位が認定されます。また、高校からの要望があれば短大教員を派遣します。

本学学長応接室での調印式で、山本校長は「大阪音楽大学短期大学部との高大連携で、学校を活性化する大きな力をいただいたと認識しています。高大連携はお互いの信頼関係が大事です。高校と大学の連絡会を定期的に持つことで、現実を生じるさまざまな問題をクリアしていけるでしょう」。中村孝義学長は「さらに大きな花を開かせるよう努力していきたい。教育面では、塩谷信廣教授に優秀な講師陣をそろえていただいたので、ご期待に添えるのではないかと思います。前期、後期にお互いの学校を訪問して、意見交換をしましょう」と握手を交わしました。

務を移します。

このほかの主な役割は学生生活総合案内▽学生生活支援（心の相談室、保健室、寮、下宿、奨学金、教育ローン、課外活動支援）▽学業支援（履修全般に関する様々な対応、留学支援）など。

なじみの曲 金管五重奏

野田小 敬老の集いで本学学生ら



秋風に萩が揺れる9月19日、豊中市立野田小学校の体育館で、地域のお年寄りを招いて「敬老の集い」が開かれ、本学学生が金管五重奏を演奏しました。この催しは野田校区社会福祉委員会、野田校区敬老の集い実行委員会の主催。会場を訪れたお年寄りには、豊中

市立第十中学校の生徒たちから心を込めて折った折鶴が手渡され、長寿を祝いました。

同中学校吹奏楽部のみなさんの「サザエさん」で朗らかに始まり、「のだつ子ひろばプリティトワーズ」の幼いレディーたちがバントワリングの後、「おじいちゃん、おばあちゃん長生きしてね!」と呼びかけると「ありがとう」と声がかかりました。



民踊やハワイアンダンスが続いて、本学学生らの金管五重奏「ギネス・ブラス・アンサンブル」が登場。トロンボーンの饗庭康太郎さんが、ユーモアをまじえ曲や楽器の紹介をしながら、トランペットの常盤井大志さん、林美沙さん、ホルンの児玉幸子さん、テューバの牧野莉絵さんと、「川の流れるように」「浜辺の歌」などお年寄りにもなじみ深い曲を演奏。華やかであたたかいハーモニーが、会場を包みみました。



こんにちは、受験アドバイザーのともみです。12月23日(水)に

今年度3回目のオープンキャンパスを開催します。当日はオペラハウスでのコンサート、

ピアノや声楽、金管アンサンブル、ジャズの公開レッスンを実施します。レッスンの様子や演奏のポイ

オペラハウスで歌えます

12月23日(水)のオープンキャンパス

ントなど、先輩の演奏を聴き先生のアドバイスを吸収してみましょ

う。声楽ではレッスン受講の高校生を募集しています。オペラハウスで歌えるまたとないチャンスです。受講希望の方は12月4日(金)までにFAXかほかまでお申し込みください。施設見学や個人相談も行います。詳細はホームページ、進学ガイドブックをご覧ください。

10年度(大学・短大)推薦入学試験

試験日 11月20日(金)～11月23日(月)

出願期間 11月1日(日)～11月5日(木) 郵送必着

11月6日(金) 9時～15時 窓口持参のみ

受験講座(冬期)

開講期間 12月24日(木)～12月26日(土)

申込期間 11月28日(土)～12月4日(金) 必着

対象 音楽大学受験を目指す方(高校1年生以上)

第58回音楽基礎科目到達度テスト

実施日 12月27日(日)

申込期間 11月28日(土)～12月4日(金) 郵送必着

高校2年生の方は初めてのテストになります。

《幸楽会》特別推薦実技認定審査

同窓会《幸楽会》特別推薦実技認定審査を8月29日に実施しました。68人の申し込みがあり、大学28人、短大37人が特別推薦の出願資格を得ました。

短大進学実技適性テスト

10年度大阪音楽大学短期大学部公募推薦入学試験における「専門実技認定制度(専門実技免除)」に基づき短大進学実技適性テストを9月13日に実施、92人の申し込みがあり、75人が「短大進学実技適性あり」との評価を得ました。

「楽しく学べそう」

オープンキャンパス生徒らにアンケート



大阪音楽大学と同短期大学部は、09年のオープンキャンパスを7月29日と10月12日にそれぞれ催しました。7月は620人が訪れ、近畿以外では静岡、富山、愛媛、高知、宮崎、熊本、福岡など遠来の高校生もいました。また、10月

はキタ・タロー氏の特別講義がありました(209号に内容掲載)。7月のオープンキャンパスではウエルカム・コンサート、公開授業などがあり、高校生や父母らにアンケートしたところ、次のような回答が寄せられました。

「施設がすごかった。ピアノがすごかった」「学長のお話に感動しました。私の忙しくも充実した学生時代も思い出し、娘にも愛と情熱を持って音楽に取り組む4年間をこの大学で過ごしてほしいと思いました」「見学してみても、ここでなら楽しく音楽を学べそうです」「授業がとても楽しかった」

悪夢のエレベーター 映画のBGMを作曲

渡邊崇さんCDも



作曲家で音楽プロデューサーの渡邊崇さん(06年短大卒・作曲)の写真が10月10日(大阪は17日)から全国ロードショーの映画「悪夢

知られている堀部圭亮さんの第1回監督作品。緊急停止したエレベーターは非常ボタン故障、携帯電話不通。乗り合わせた4人はこの状況をどう切り抜けるか。騙し騙されの掛け合いドラマ。渡邊さんは堀部さん主演の映画「BABY」で音楽を担当。その縁で話が持ち込まれ、演奏には久保田裕美さん(00年大卒・フルート)ら本学関係者3人も参加しています。

のエレベーター」で、音楽を担当。作品の中のBGM約20曲も作りました。映画は俳優で構成作家としても

渡邊さんはこれまで映画やCMのために書いた17曲を集めたCD「SOIL」を9月1日にNKKR recordからリリースしました。定価は1200円です。

オペラハウス合唱団の高津綾子さんら

スロバキアの音楽祭に出演

ザ・カレッジ・オペラハウス合唱団員の高津綾子さん（93年大卒・声楽）ら11人が7月18日から26日までスロバキアを中心に開かれた国際音楽祭「Eurochestries in Slovakia 2009」に参加。この音楽祭はポーランドやハンガリーへと国境を越えて開催され、各国参加者と友好・親善を深めました。

ポーランド・ハンガリーでも交流



オープニング・コンサートで歌う「WA-ON」のみなさん

音楽祭の、高津さんと音楽博物館学芸員の小西潤子さん（90年院修・声楽）ら7人が本学卒業生です。

オープニング・コンサートはコシツェの芸術会館であり、「WA-ON」をはじめスペイン、フランス、オーストリアなど6カ国の約230人が参加しました。スロバキア東部の会場では、神奈川県出身の日本人女性が来場。高津さんらは滝廉太郎の「箱根八里」を歌うと、その女性は「日本の歌を聴けるとは」と感動。世界遺産のスピシュ城では、観光客から「日本の歌を」とリクエストされました。クライマックスは24日から26日の3日間。ウィーン在住の日本人オーケストラも参加しました。また、ポーランドやハンガリーの会場で、「Sakura」などを披露した高津さんは「スピシュ城やバーではソーラン節を披露、あの『ハイ、ハイ』という掛け声が受けたようで、みんな真似をしていました。言葉が通じなくても音楽を通して現地の方々と触れ合うことが出来、改めて歌の素晴らしさを実感しました」と話していました。

インドネシア・バリ島の伝統音楽「ガムラン」を体験するワークショップが、7月27日と9月12日に音楽博物館で開かれ、計35人が参加しました。特に来日中のバリ・ガムラン演奏団「ス

バリの奏者 手ほどき



ガムラン・ワークショップ2009

タマニ」のメンバーを講師に迎えた7月は、遠方からファンが詰めかける人気ぶり。

韓国から初の受講生

指導者研修・合唱応用編

オーストリアで合唱指揮を学ぶ韓国出身のヒーボン・ジョンさんが7月18日から3日間、本学の指導者研修「合唱 応用編」を受講しました。指導者研修で外国人を



受け入れるのは初めて。講師の本山秀毅教授は、ドイツ語と韓国語しか話せないジョンさんのために

本学演奏員でガムラン奏者の小林江美さんの通訳で、受講者はバリの奏者から直接ガムランの手ほどきを受けました。「ガムランの魅力は、西洋音楽にはない微妙なピッチのずれから、うなりを生じさせるところ。本場の方に習うとバリの息吹、空気感まで伝わってくる」とガムラン・サークルの部長、岩崎和音さん（大3・音楽学）。「ミニ・コンサートでは「スダメニ」の演奏とバリ伝統舞踊が披露され、受講者はガムランの不思議な響きと一体化した舞姫のしなやかな身のこなしに、しばし見とれていました。

ドイツ語で指導しました。

ジョンさんと同じオーストリア国立グラーツ芸術大学に留学した本学卒業生、宮嶋秀郎さんの勧めで来日したジョンさんは、「いい合唱団、オーケストラと訓練する機会は貴重。レベルの高い方々と一緒にでき、本山先生は問題点を即座に指摘してくださり、わかりやすかった」と充実した様子。

修了演奏会ではJ・S・バッハのカンタータやモテットを指揮。京都パツハ合唱団、オペラハウス管弦楽団員ら有志で編成されたオーケストラを見事に統率し、表情豊かな音楽を引き出しました。

発表の場 卒業生ら期待

大阪音楽大学は地元大阪の文化振興に役立ててもらおうと今年7月、大阪・道頓堀の中座くだいだ

大学がピアノ寄贈



道頓堀の「ZAZA」へ

大阪音楽大学は地元大阪の文化振興に役立ててもらおうと今年7月、大阪・道頓堀の中座くだいだれビル（中座跡）内にオープンした「スタジオZAZA」にグラランドピアノ一台を寄贈しました。「ZAZA」はいわゆる貸しホールで、本学卒業生たちの新たな発表の場としても期待されています。

「道頓堀を以前のような文化・芸能の発信地にしたい」。作家の難波利三さんやジャズピアニスト・大塚善章さん、芸能プロデューサー・岸田隆夫さんが立ち上がり

「大・道頓堀文化祭実行委員会」を結成しました。活動の場は、くだいだおれビル4階にある「スタジオZAZA」。

ホールは100〜200人が入る大小3つのエリアに分かれ演劇、ミュージック・ライブ、寄席、演芸など様々な分野のイベントに活用できますが、同実行委員会は非営利団体。ピアノ購入の資金がないため大阪音楽大学にピアノの寄贈を申し立てました。

9月25日には実行委から野田泰久プロデューサー、大学側から上

ハノイ日本人学校は7月23日から9月2日まで夏休み。私も久しぶりに帰国し、わずか2週間ですが充実した日々を過ごすことができました。

畠山歩美さんのハノイ奮闘記

様々な子が在籍

帰国後はベトナムでは手に入らない物資調達に走り、いろいろな方ともお会いしました。「4月からハノイで日本人学校の教師をしているのよ」。「えっ、ベトナムで日本語教えているの？ 大変ね」。ほとんどの人は、こう聞き返します。日本では海外の日本人学校のこと余り知られていないようで、

ちょっとショックかな。

日本人学校には、いろいろな子どもがいます。日本全国から来ていることはもちろん、世界の様々な国で生まれ育った子ども数多くいます。初めての海外生活に戸惑いを感じている子どもいれば、世界中の日本人学校を転々として



いる子、現地校にずっと通っていたため日本の教育に馴染めない子、日本語の言語表現がままならない子などなど。本当に様々な子がいる中で、日本と同じ水準の教育を受けられるように教育を提供し、

共に学ぶことが日本人学校で働く私たち教員の使命です。日本人学校のこと、わかっていただけでしょうか。

2学期が始まり、教室にかわいい子どもたちの声が戻ってきました。ところが、それも束の間、生徒が新型インフルエンザにかかり、学校は1週間臨時休校。猛練習していた文化祭は延期になるし、学校ではいろいろなことがあります。

夏休みには大音在中、和楽器の授業でお世話になった菊武厚詞先生にお会いし、箏一面をお借りすることができました。陸路、空路、持ち運びに大変でしたが無事学校に到着。本物の箏を見て驚く先生方。私はちよっぴり鼻高々。

田英治・エクステンション事務部門長らが立会い、ピアノの受け渡しが行われました。「ピアノが入ったおかげでクラシックやジャズの公演もでき、利用の幅が広がりました」と野田さん。上田事務部門長も「本学活動拠点の一つとして、利用方法を積極的に検討したい」と「ZAZA」に大きな期待を寄せています。

職員研修に117人



09年度の職員研修が9月1日、本学で行われました。午前中は職員117人がミレニアムホールやO号館で消防訓練。豊中南消防署の指導のもと、非常放送設備や消火器の使い方などについて学びました。

午後は人材開発コンサルタント、藤野祐美さんを講師に招き「コミュニケーション研修とクレーム対応」についての講習会。「より良いコミュニケーションのあり方」「クレーム対応の正しい処理の仕方」などについてのノウハウを勉強しました。

手作り 被爆ピアノコンサート

今も世界中のどこかで戦争が起き、多くの子どもたちが犠牲になっています。その現実から目をそらすなさい。8月1日、

山田紗耶加さん

大阪府立国際児童文学館で開かれた「被爆ピアノ平和コンサート」で山田紗耶加さん（79年短大卒・音楽専攻）は満席の客席に向かってこう語りかけました。広島を浴びながら奇跡的によみがえった被爆ピアノ。その音色は平和を願う「魂の音」。

平和訴える魂の音



その後は大阪、三重、静岡、鳥取、岡山など全国各地で演奏会を開いてきました。山田さんの周りには活動に共感したボランティアが集

絵本「ミサコの被爆ピアノ」（松谷みよ子作）の朗読で始まったコンサートでは山田さんが「綿のほうし」、F・シヨパン「ノクターン20番 遺作」などを演奏。ヴォーカルの雑古さんはアンジェラ・アキの「手紙〜拜啓十五の君へ」を熱唱しました。ステージにはフリージャーナリスト、西谷文和さんの写真「イラクの子どもたち」がスライドで映し出され、聴衆は今起きている現実の姿を目の当たりに。

この後、子どもコーラス「ポップコーン」や女声コーラスの皆さんも登場。山田さん作詞作曲「ごめんなさい〜宇根利枝さんの歌や「千の風になって」などを歌い、コンサートを盛り上げました。

コンクール

敬称略

■第3回大阪府立青少年会館ジュニアクラシック音楽コンクール 大学生部門金管楽器の部 3位 森美鈴（大3・トランペット）=4月6日、大阪府立青少年会館。コンクール実行委員会主催



森美鈴

■第23回アジア国際文化芸術フェスティバル ピアノデュオ 金賞 中尾恵、松尾美保（90年大卒・ピアノ）=5月26日、ザ・フェニックスホール。中国音楽理事会主催



中尾恵



松尾美保

■第3回横浜国際音楽コンクール アンサンブル部門連弾の部 2位 中尾恵、松尾美保=8月27日、横浜市磯子公会堂。横浜国際音楽コンクール実行委員会主催



西垣良美

■第3回神戸新人音楽賞コンクール 管弦打楽器部門 最優秀賞 西垣良美（09年大卒・マリンバ）▽声楽部門 優秀賞 大崎友美（09年大専修・ソプラノ）、高木未知子（06年大専修・ソプラノ）=6月21日、新長田勤労市民センター・ピフレホール。神戸芸術文化会議など主催



大崎友美



高木未知子

■第3回全日本芸術コンクール ヴァイオリンの部 1位 土井美佳（09年大卒・ヴァイオリン）▽2位 高崎真央（大2・ヴァイオリン）=8月10日、神戸市産業振興センター・ハーバーホール。全日本芸術コンクール実行委員会主催



土井美佳



高崎真央

■09年武生作曲賞 入選 前田恵実（07年大卒・作曲）=入選作品「shizuku」は8月25日、福井県越前市文化センターで初演。武生国際音楽祭推進会議など主催



前田恵実

■09年武生作曲賞 入選 前田恵実（07年大卒・作曲）=入選作品「shizuku」は8月25日、福井県越前市文化センターで初演。武生国際音楽祭推進会議など主催

音楽療法 実習に8人



無反応の怖さ経験

音楽療法の学外実習が8、9月に豊中市内の坂本病院で行われました。今年の実習生は短大専攻科の寶角真季さん（ピアノ）、中井美緒さん（クラリネット）ら8人。同病院の那須貴之・音楽療法科長の指導のもと、2つのグループに分かれて実施しました。

実習生は「ふるさと」や「瀬戸の花嫁」「上を向いて歩こう」など、患者が一度は口ずさんだことのある唱歌や歌謡曲を歌い、心の扉を開こうとします。しかし、患者の多くは言語や記憶に障害のあるお年寄り。実習生は無反応の怖さ、不安を初めて体験します。

「皆さんは言葉に頼りがち。音楽が言葉。音楽を通して患者の心を開いてください」と那須科長。初日、2日目はほとんど何もできなかった実習生たち。3日目には患者にも変化が。音楽療法士を目指す王鞍菜津美さん（作曲）は「音楽が武器であることを痛感しました。音楽療法士への夢に向かって一歩近づくことができました」。

《幸楽会》後援演奏会

アンサンブル イソジナ 和みのヴォカール
11月1日(日)14時 2500円
兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
覚張陸美 清水真理子 野村友佳 平田真理
松尾由紀江 三浦優子 山口暁子
(問)isojina@gmail.com アンサンブル イソジナ

**ベルトラン・ジロー氏を迎えて
クラシックの集い**
11月1日(日)15時30分 茨本市ローズワムホール
一般2500円 学生1500円
フルート 谷原いずみ ソプラノ 大峰かず子
080-3693-4511 ジュテルンヘン 小林

有居 恵ピアノリサイタル
11月6日(金)19時
前売2500円 当日3000円 学生1000円
兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
ショパン:スケルツォ 第4番 ほか
090-8522-6419 有居恵ピアノリサイタル実行委員会

音のおもちゃ箱
11月7日(土)13時30分 久保惣Eiホール
美術館入館者入場無料 要整理券
大賀千夏子 奥野二美 吉田浩美 小池由美子
川村美智子 青山裕子 藤原祥子 山中正子
0725-54-0001 和泉市久保惣記念美術館

クレアリー和子 ピアノリサイタル
11月8日(日)14時
丹波市立ライブピアいちじま大ホール
前売2500円 当日3000円 中学生以下1500円
ベートーヴェン:ピアノソナタ「ワルトシュタイン」
090-1483-6608 クレシエントMKK

沢田真智子ピアノリサイタル
11月13日(金)19時 神戸文化ホール中ホール
一般3000円 学生2000円
共演 ヴァイオリン 北浦洋子
078-805-6351 神戸コンサート協会

**創立20周年記念
ミ・ペメル サクソフォンアンサンブル**
11月20日(金)19時 いずみホール
前売A席4000円 B席3000円 C席2500円
当日A席4500円 B席3500円 C席2500円
0797-25-7262 クラシック・ハウス
11月22日(日)14時 紀尾井ホール
一般4000円 学生2000円
03-3235-3777 コンサートイマジジ

室内合奏団THE STRINGS 第7回定期公演
11月28日(土)18時30分
カトリック夙川教会地下聖堂
前売2000円(当日500円増 学生割引有)
柳田耕治 中川菜月
078-203-8038 室内合奏団THE STRINGS事務局

**クラシックコンサート～時の流れ～
障害のある方にも気軽に楽しんでいただけのコンサート**
12月1日(火)14時 無料 要予約
大阪国際交流センター大ホール
大藪真紀子 土井淳平 高畑京子 小坂井悠
氏橋良江 田中史人 萬浪弘和 熊本祐美子
06-6656-1280 社会福祉法人ゆゆうのゆう

藤井佐和 箏・十七絃リサイタル vol.2
12月2日(水)19時 ザ・フェニックスホール
当日3500円 前売3000円
藤井佐和 吉崎克彦 藤原道山 藤井泰和
吉崎克彦・風神雷神 ほか
090-3494-7893 藤井

親子のためのクリスマスコンサート
12月13日(日)14時 西宮市プレラホール
大人3000円 小人1500円
ニヤリみゆき ニヤリ・キュラ
ジングルベル 赤鼻のトナカイ ほか
0798-52-5515 ジーエムアートグレース

大阪音楽大学後援演奏会

Sé2009 第17回現代音楽作品展
10月28日(水)19時 豊中市立ローズ文化ホール
一般3000円 学生2000円
中石晃生 植野洋美 前田正博 楠田陽子
八田京子 鈴木英明
e-mailsakkyokukasyuudanse@yahoo.co.jp

小笠原順子ピアノリサイタル
10月31日(土)18時
ザ・フェニックスホール 3500円
ベルク:ソナタ 他
06-6135-0503 大阪アーティスト協会

第10回オリゾン作品演奏会
11月1日(日)14時
茨本市クリエトセンター 2000円
前田恵実 佐伯真梨 楠井淳子 森本友紀
河合禎子 他 072-794-3824 梶山

前田佳世ソプラノリサイタル
11月7日(土)15時30分
ムラマツリサイタルホール新大阪
一般3000円 学生2000円
ソプラノ 前田佳世 ピアノ 岡原慎也
06-6398-6988 ムラマツリサイタルホール新大阪

油井美加子ピアノリサイタル
11月10日(火)19時 3500円
兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
ドビュッシー:前奏曲集 第1巻 他
06-6135-0503 大阪アーティスト協会

**Farbenreich Musik Konzert～クラリネット・
ヴィオラ・ピアノによる～**
11月26日(木)18時30分
東梅田教会 一般2000円 学生1500円
松尾依子 高尾真里恵 渡辺雅子
090-5152-2708 渡辺

**室内楽コンサート～明日を創る音楽家たち
河村典子、白土文雄 両氏を迎えて～**
12月5日(土)18時30分
八尾ファミリズム小ホール 2500円
久原正子 久保美緒 久田幸代 松田昌美
前田智子 072-922-0931 前田

林達次メモリアルコンサート
12月6日(日)14時30分
京都コンサートホール 大ホール
5000円 4000円 3000円
釜洞祐子 寺谷千枝子 波多野均 田中勉
京都・大阪ゲヴァントハウス合唱団
京都市交響楽団 アクネス・グロスマン
075-751-0617 エラート音楽事務所

**Poets Inspire Composers ～featuring
Yuri Morimoto**
12月6日(日)14時
CREOLE Acoustic Music Live 2500円
ピアノ 森本ゆり 脇山幹士:シャーロット姫
mail:yuri-recital-2009@yahoo.co.jp

岡原慎也ピアノリサイタル
12月13日(月)15時
イシハラホール 一般4000円 学生3000円
ベートーヴェン:ピアノソナタ 短調「月光」他
(問)ラフトサウンド

ザ・タロー・シンガーズ ア・カベラ クリスマス・コンサート
12月17日(木)14時/19時 2回公演 3000円
兵庫県立芸術文化センター神戸女学院小ホール
合唱 ザ・タロー・シンガーズ 指揮 里井宏次
0797-34-0128 里井

ミレニアムホールの催し

大阪音楽大学卒業生による
若い芽のコンサート2009
華麗なる歌曲とデュオの競演

11月21日(土)14時 入場料500円
土肥彩香 辻村ゆず 倉本尚子 加藤理彩子
松野友美 小寺智絵 柳川真理子 南亜貴子

ミレニアムホール特別講座
『シューベルト、歌曲の世界』
12月5日(土)14時
講師 日下部吉彦
演奏 岡原慎也 藤村匡人
受講料1000円 *事前の申し込みが必要です。
<申し込み・問い合わせ>エクステンション・センター
06-6334-2251 FAX06-6334-2542

畑中良輔特別講座
日本歌曲100年の歩みを迎えて
『戦後日本の二大作曲家の出現-中田喜直 團伊玖磨』
12月18日(金)18時30分
講師 畑中良輔
演奏 石橋栄実 小玉晃 關口康祐
受講料2000円 *事前の申し込みが必要です。
<申し込み・問い合わせ>エクステンション・センター
06-6334-2249 FAX06-6334-2542

諸橋玲子講師 3 作品出版

作曲の諸橋玲子講師の作品「遠い空の縁より ヴァイオリンのために」 「玄・Kuro チェロのために」 「散る花の混声合唱のための」の楽譜3冊が、マザーアーツ社から出版されました。「遠い空の縁より」は、日本庭園の石庭の抽象的空間、宇宙に響く命の音を表現した作品でA4判8頁、定価840円。「玄・Kuro」は、書や水墨画で、

品でA4判24頁、定価1785円。

淡墨を重ねて真の黒にいたる一息手前
でとどめた色「玄(くろ)」
の無限の働きを音に託した
作品で、A4判10頁、定価
1050円。「散る花の」は、
西行の和歌「春風の花を散
らすと見る夢は さめても
胸のさわぐなりけり」を歌
詞に、風の音や擬音の無声
音を効果的に織り込んだ作



第43回 幸楽会コンサート

2010年1月11日(月・祝)14時
入場料 2000円
ザ・カレッジ・オペラハウス
演奏 片岡リサ 矢崎真理 田邊織恵
幸楽会ニューイヤークアンサンブル
宮城道雄:春の海
モーツァルト:ピアノ四重奏曲
J.シュトラウス:春の声 美しく青きドナウ
<申し込み・問い合わせ>
幸楽会事務局 06-6334-2832

第26回夏まつり 7月25日

お母さんコーラス・フルフルの皆さんが演じるミュージカル「ピノキオ」で幕を開けた今年の夏まつり。昼前から突然、雨が降り出し、青空の下での「夏まつり」とはいきませんでした。子どもたちはヨーヨー釣りや輪投げなどを楽しみ、夏休みを満喫していました。



第43回うんどうかい 10月11日

行進曲にのせて園児279人が入場の後、かけっこや保護者参加のだるま落とし、卒園児のおやつとり競走、年長組の組体操など21競技がありました。この日は絶好の運動会日和。ビデオやカメラ片手に声援を送るお父さんやお母さんたちもヒートアップ。



付属音楽幼稚園

ふれあいコンサートに親子130組

本学卒業生ら約60人でつくる「おけいはんウィンドオーケストラ」=吉延勝也さん(84年大卒)指揮=が8月15日、守口市の「ムーブ21」で開いた「夏休み親子ふれあいコンサート」に親子130組を招待しました。クラリネット奏者の吉延さんが「未就学児と父母に



ハイグレードな音楽を」と呼びかけ、NHK交響楽団首席トロンボーン奏者の新田幹男さん(97年大卒)、関西若手No1のサクソフォーン奏者、西本淳さん(00年院修)、同、井上麻子講師(97年大卒)らがメンバーになっています。

演奏会では「崖の上のポニョ」やディズニーメロデーなどを披露。終了後、楽器を手にするのが初めて、という子どもたちに演奏の仕方を教えていました。

西岡信雄名誉教授のコレクションを一堂に展示する特別展「ワールドドワークの足跡」楽器が自然と人間を語る」が音楽博物館で始まりました。

楽器・人形3050点展示



西岡コレクション特別展

展示は西岡名誉教授が30年かけて約40カ国で収集したコレクションのうち、音楽博物館に寄贈された楽器1450点、楽器を奏でる人形1600点。音楽と人類のかかわりを伝える貴重な資料ばかりで、訪れた人たちも「わすごい」。

会期は12月28日まで。入場無料。休館日は日・祝祭日。

石田画伯2点目の絵画寄贈

ザ・カレッジ・オペラハウスに新しい絵画「Le Bouquet」(100号)が寄贈されました。贈り主は大坂府豊中市在住の創元会会員・石田圭吾画伯(写真、左から2人目)。同画伯は06年にもヴァイオリンを手にした人物画「En écoutant」(100号)を寄贈されており、2つの絵はオペラハウス2階の東西正面に仲良く飾られています。



「Le Bouquet」は08年の日展入選作品。演奏を終えた女性がピアノの前に佇み、感動と余韻を噛み締めている姿を描いています。モチーフの中に赤い花束がくっきりと浮かぶ印象的な作品です。絵画の中に描かれていたピア

ノはオペラハウスで使っているコンサートピアノ「スタインウェイ」。石田画伯は演奏会に何度も足を運び、客席からスケッチしました。絵画の搬入は7月9日に行われ、ました。雅子夫人とオペラハウスを訪れた石田画伯は「娘を嫁がせるような気持ち。いいところにもらっていただき感無量です」。

石田画伯1カ月後に急逝

石田圭吾画伯(76)が8月11日、病気のため亡くなりました。同画伯と親交があり絵画寄贈の橋渡しをしてきた谷川勝己教授(音楽)は「先生は闘病中にもかかわらず、絵画搬入に立ち会われ、大変喜んでおられたのが印象的でした」。

次号発行予定12月21日